

「心を騒がしてはならない」

～隔ての壁を取りのぞく理解する力～

ヨハネ 14:19 ~ 31

2019年はいかがでしたか？世の中では「忘年」という言葉を使いますが、一年を忘れて新しい年を迎えるのではなく、一年の終わりを感謝で終えることで、来年はもっとよい土台の上に新しい家が建てられていきます。そのためには、この一年をよく理解する必要があります。イエス・キリストは私たちが道を外れたとき、その道に戻るために悔い改めることを示されました。私たちが過去を見る時、その出来事を後悔するために見るのではなく、なぜ誤ったのかを信仰によって見るのが大切です。例えば、通勤途中に道を間違えたとき、「やっぱり私はダメだな…」と思うのでしょうか？なぜそうなったのか、どこで間違ったのかを考え、次はよりよい道を探そうとします。これがクリスチャンの生き方です。

俳優のシルヴェスター・スタローンは、俳優として成功するまでにさまざまな下積みを経験した人でしたが、有名になるにつれて私生活はどんどん廃れ、妻を捨て、子どもたちを路頭に迷わせ、自分は名声とキャリアを優先させてきました。そんななか、下積み時代に出演した成人映画の権利を、お金を払えば返すと映画の配給会社が言ってきます。彼は、「私はイエス・キリストに出会って過去を許してもらった。この世の中に生きている人はみんな隠し切れない過去を持って生きている。だから自分は自分の過去を改めはするが、それを消し去ろうとはしない」と答えました。彼は名声とキャリアを手にしても、何も得るものがなかった自分の過去をよく理解していたのです。過去を理解することが、彼の人生の土台となりました。『神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益として下さることを、私たちは知っています。(ローマ 8:28)』彼はこの御言葉を、身をもって体験したのです。

1. こころの平安

2020年を生きるということは、2019年を理解し、正しかったことはより進め、そうでなかったことは改める必要があります。私たちは一人ひとり色が違いますが、私たちは皆と一緒が安心、皆がしていることが普通と思っています。自分は普通に正しく、相手が言っていることが間違っているという、自らのスタンダードがあります。しかし、私たちのスタンダードはイエス・キリストの言葉です。

『キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまな規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。それからキリストは来られて、遠くにいたあなたがたに平和を宣べ、近くにいた人々にも平和を宣べられました。』(エペソ 2:14-17)

クリスマスとき、神様は自分の在り方を捨てて降りてこられました。それは、新しいひとりの人を造るためです。そのためにイエス・キリストがされたことは、理解することでした。例えば、自転車に最初から乗れる人がいるのでしょうか？自転車に乗れる人は乗り方を知っていますが、乗り方を知らない人は乗れません。最初は誰かが後ろで支えてくれていて、一人で乗れるようになったら手を放します。これは、乗れる人が、乗れないことを理解して、乗れるようにプロセスを考えたのです。同じようにイエス・キリストは私たちが理解するために、同じ痛みと苦しみを通り、馬小屋でお生まれになりました。そして、彼が十字架で行ったことは相手を理解することでした。『そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。』(ルカ 23:34) 息を吸うのも苦しい状況でイエス・キリストがこのように言えたのは、彼らの状況を理解していたからです。私たちは相手を理解しているのでしょうか？理解しようとしていないと、敵意が生じ、隔ての壁ができます。

相手がどうしてそんな行動をとってしまうのかが分からないときがありますが、多くの場合、そこに不安や恐れ、過去のマイナスな出来事があります。ですから、相手を理解する方法は、私たちが古い自分に死に、新しい人を自分のなかに生かすことなのです。

2. 自己中心に注意

私たちの人生のスタートは神様の十字架です。十字架は、帝国が帝国を維持するために、反逆したものを見せしめにする死刑の道具でした。「さまざまな規定から成り立っている戒めの律法」によって、イエス・キリストは裁かれたのです。ですから、私たちは自分と家族の間に、自分と友人の間に、新しい人を迎えなければなりません。2020年を正しく生きようとするならば、理解することをしていきましょう。私たちは理解できないとき、相手を否定し、相手のせいになります。「私がこうなったのは」「あなたがこう言ったから」これは自己中心です。それはアダムとエバがしたことです。あなたは自己中心ではなかったでしょうか？愛の反対は責任転嫁です。

3. 理解する力を得る

『見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をす。』(黙示録 3:20)

ここで「彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をす」と2回繰り返されているのは、お互いがお互いを受け入れたということです。イエス・キリストが私たちの戸をたたきたら、私たちは戸をあけましょう。たたいてもらったのなら、次は私たちが戸をたたきましょう。私たちは戸を叩かない決断をいつもしてしまいがちですが、諦めてしまいそうになる時、そこで話し合い、相手の気持ちを理解し、時がくるのを待ちましょう。お互いに分かり合おうという気持ちを持って戸をたたき続ければ、戸は開きます。それをまず模範として示されたのがイエス・キリストでした。私たちの戸があくまでたたき続け、扉が開いたら入り、一緒に食事をしようと言われました。絶えず私たちに寄り添い続けてくださり、私たちがどんなに裏切っても今日まで神様は待っています。もし、許せない人がいるならイエスの御名によって許しましょう。その人がなぜそんな行動をとってしまうのか理解しようとなんかへりくだったときに、そこに神様の御業が起ります。時間が必要なときもあります。しかし、諦めないことには力があります。私たちは勇敢であって、愚かになっははいけません。愚かにならないために、心を騒がせてはなりません。今日、騒ぐ心を捨てましょう。

まとめ

キリストが十字架を忍ばれた理由は、私たちが理解するためでした。ルールに目が向いていませんか？そのルールによって相手を排除し、比較して生きていませんか？そんな愚かな私たちが理解するために、イエス・キリストは馬小屋で生まれ、大工として育ち、裏切られ、ムチ打たれて十字架にかけられました。それでも、私たちが愛し、「エルサレムの娘たち。わたしのことで泣いてはいけません。むしろ自分自身と、自分の子どもたちごとのために泣きなさい。」(ルカ 23:28)と言われました。誰よりも一番大きな敵が自分のなかにあります。いつも誰かのせい、何かのせいにしていきます。その自分のなかにいる自己中心に気づいたとき、隣人がしていることを理解することができます。人を裁いてのしるクリスチャンから、理解して共に成長する、人に寄り添い理解するクリスチャンになりましょう。私たちが戦わなければならないのは自分です。神様の恵みによって自分の罪を理解しましょう。これが理解することのスタートです。

(要約者:岡本 享子)

(2019年12月29日)